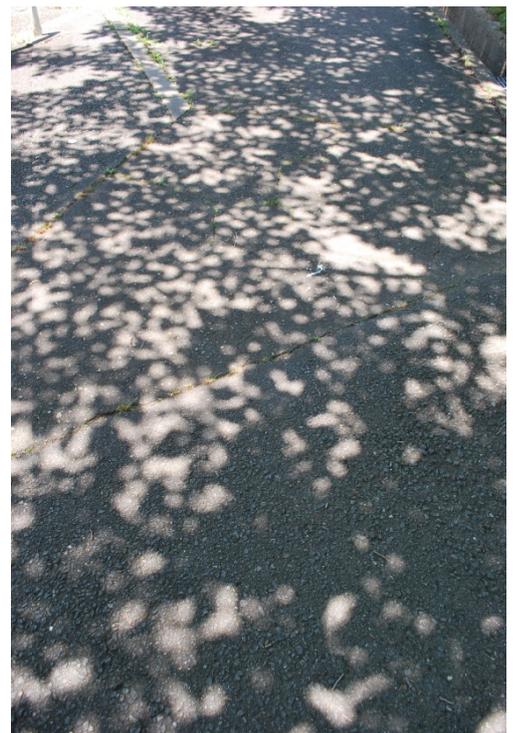




第2章

みどりの現況と課題



1 吹田市の概況

(1)位置・地勢

吹田市は、大阪府の北部に位置し、南は大阪市、西は豊中市、北は箕面市、東は茨木市と摂津市に隣接しており、東西 6.3km、南北 9.6km、面積 36.09k m²を占めています。また、市内とその周辺には名神高速道路、中国自動車道、近畿自動車道、JR 新大阪駅、大阪国際空港などの国土軸交通幹線と施設が配置され、大阪市の都心部へ 10km 圏内にあるなど、至便な交通条件にあります。

地勢としては、市域北部は北摂山地を背景に樹枝状浸蝕谷の発達した標高 20m から 117m のなだらかな千里丘陵、市域南部は安威川、神崎川、淀川をつくる標高 10m ほどの沖積低地から形成されています。

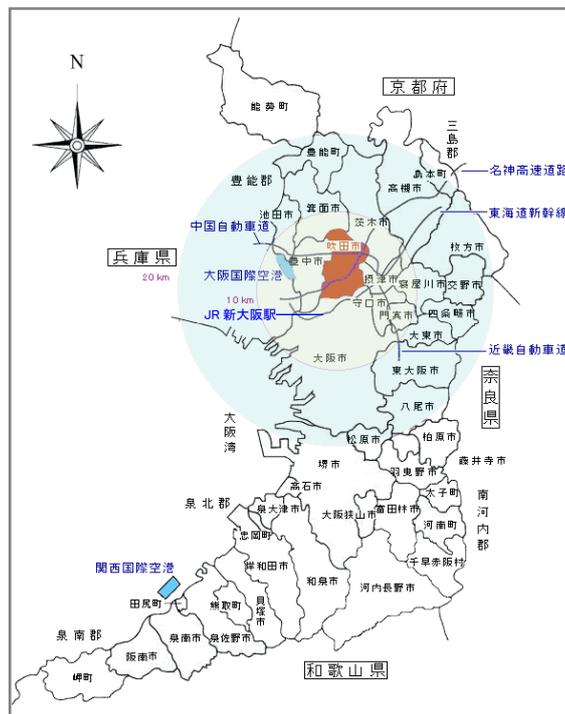


図 2.1.1 吹田市の位置
(出典：「吹田市ホームページ」)

(2)人口

①人口と世帯数の推移

平成 26 年度（2014 年度）末現在、吹田市の人口は 362,899 人です。経年変化をみると、人口は昭和 62 年（1987 年）に一旦ピークを迎え減少しましたが、平成 6 年（1994 年）を境に増加に転じ、平成 15 年（2003 年）には 35 万人都市となり、近年は増加傾向が鈍化しています。これに対して、世帯数はほぼ一貫して増加傾向にあり、1 世帯当たりの世帯人員は一貫して減少傾向にあります。これは、核家族化の進行や、単身世帯の増加によるものと考えられます。

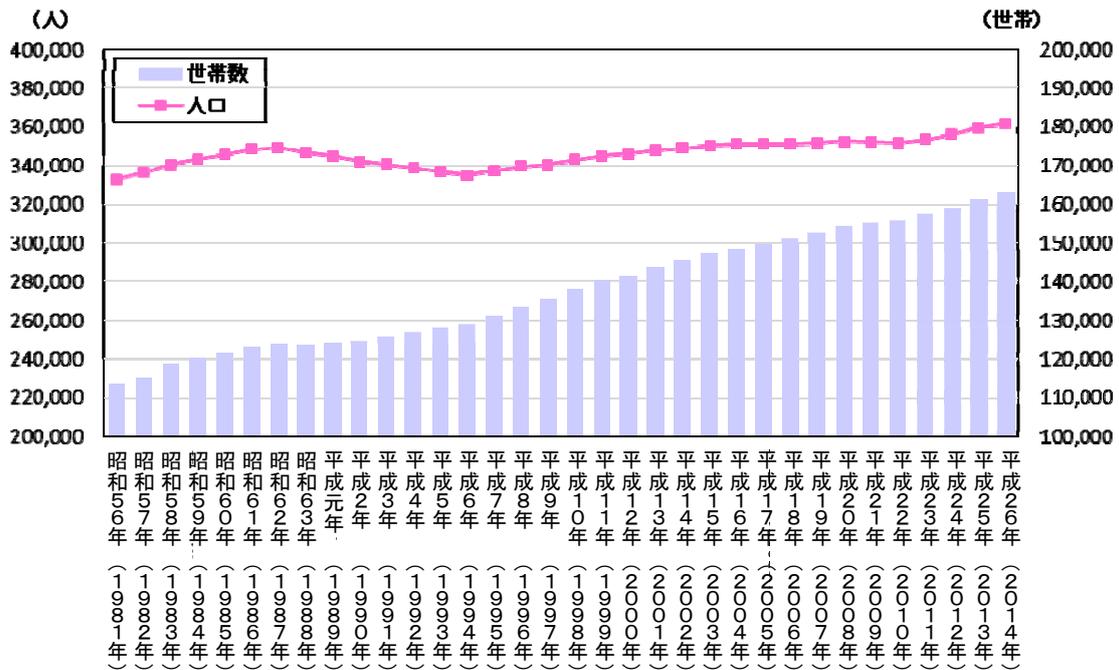


図 2.1.2 人口と世帯数の推移

(出典：「統計書」(吹田市、平成26年(2014年)))

②人口構成

昭和60年(1985年)と平成26年(2014年)の人口構成を比較すると、24歳以下の人口減少、55歳以上の人口増加となっており、少子高齢化が進行しています。今後もこの傾向は一層進むと見込まれています。

また、吹田市の特徴として、市内に6つの大学が立地していることから、人口に占める学生の割合が高く、さらに、転入・転出により、2万人を超える市民の入れ替わりがここ10年以上続いていることが挙げられます。

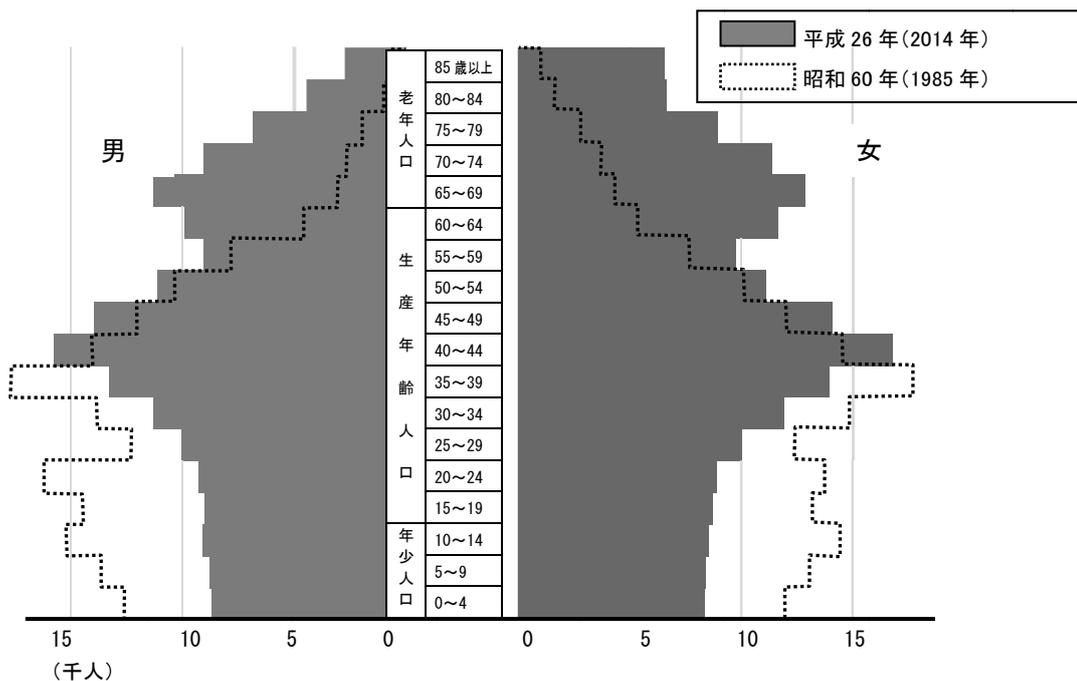


図 2.1.3 年齢階層別人口

(出典：「統計書 平成26年(2014年)版」(吹田市、平成26年(2014年)))

2 みどりの現況

(1) みどりの分布特性

吹田市のみどりの分布には、次のような特徴があります。

① 沖積低地のみどり

市域南部は、沖積低地からなります。オープンスペースの乏しい市街地のため、片山公園や中の島公園などの都市公園と「生産緑地地区」を除き、まとまった緑被地はほとんど見られません。その一方で、市境を流下する神崎川と安威川が、貴重なまとまったみどりを形成しています。

② 丘陵・台地のみどり

市域北部は、千里丘陵と岸部台地からなり、北摂山系へとつながっています。そこには、万博記念公園をはじめ、千里緑地や大阪大学などのまとまったみどりが分布しており、今日に継承されてきました。また、市域南部の沖積低地と丘陵・台地が接している地域では、紫金山公園や垂水神社などの斜面林や、博物館や関西大学を始めとする数多くの教育関連施設と企業厚生施設のみどりが帯状に分布しています。



図 2.2.1 吹田市断面模式図（南北方向）

(2)みどりの現況

平成26年(2014年)時点のみどりの現況を見ると(図2.2.2参照)、市域南部では、比較的小規模なみどりが点在する程度ですが、市境に大規模な水面である神崎川と安威川が流下しています。市域中部では、多くの農地が点在しています。市域北部では、ため池を含む大規模な公園・緑地などのまとまったみどりや、千里ニュータウンを始めとする豊かな住宅地のみどりが分布しています。

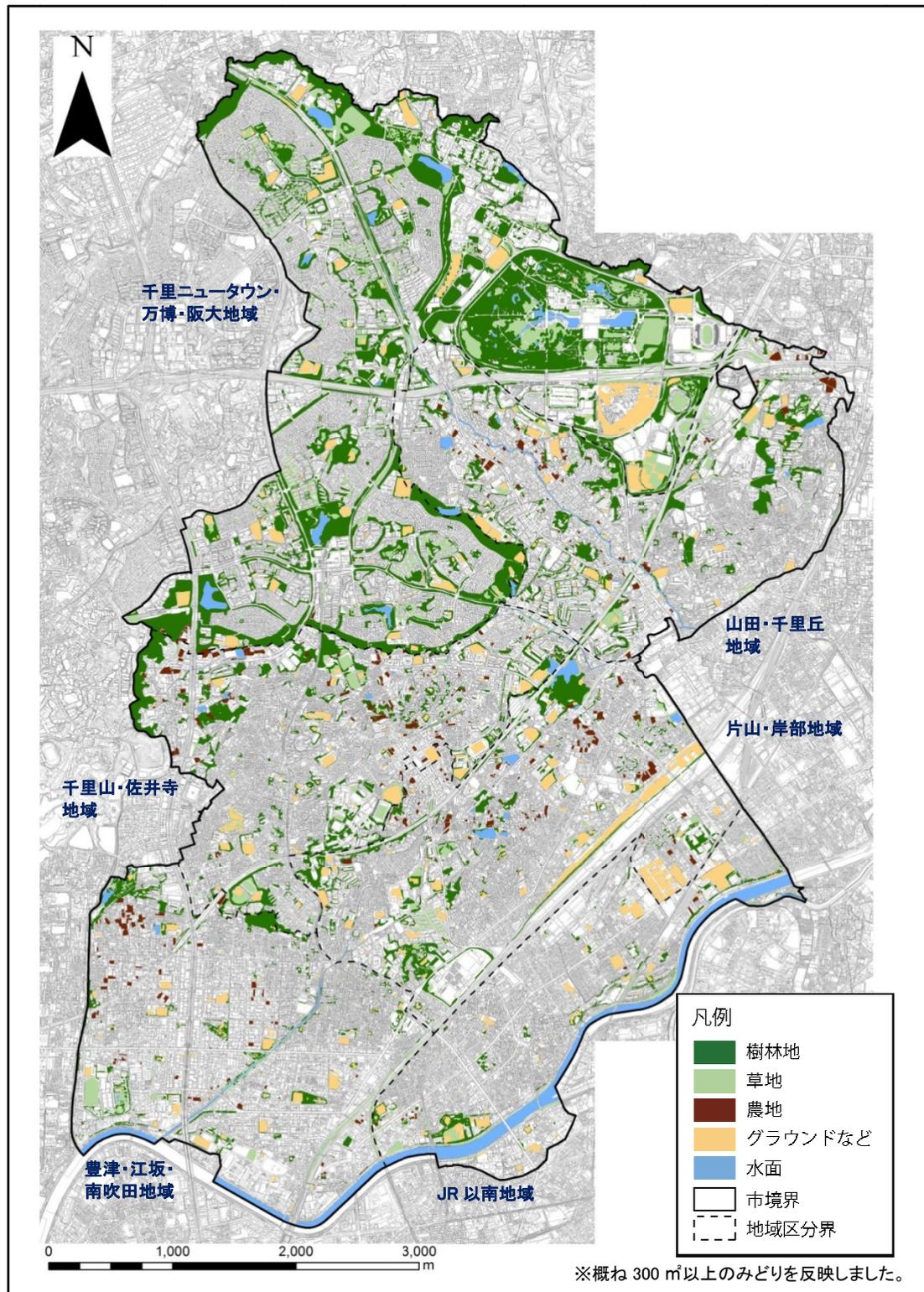


図 2.2.2 みどりの現況 (平成 26 年 (2014 年) 時点)

(3)みどりの変遷

平成21年(2009年)から平成26年(2014年)まで、最近5年間のみどりの面積の変化を見ると、片山・岸部地域、千里山・佐井寺地域、山田・千里丘地域を中心にみどりの面積が減少しており(図2.2.3参照)、その減少量は平成5年(1993年)から平成21年(2009年)までの16年間の減少量の約1.6倍に匹敵しています。これは、マンションや戸建住宅などの宅地開発に伴って、既存のみどりが失われていることが大きな要因となっています。

また、みどりの種類ごとに面積の変化を見ると、平成21年(2009年)から平成26年(2014年)までにかけて、樹林地が約26ha、草地が約29ha、農地が約7ha、グラウンドなどが約8ha、水面が約1ha、それぞれ減少しており、樹林地と草地が、比較的大きく減少しています。(表2.2.1参照)。

表2.2.1 みどりの面積の変化

	平成5年 (1993年)	平成21年 (2009年)	平成26年 (2014年)	経年変化		
				平成21年 -平成5年	平成26年 -平成21年	平成26年 -平成5年
樹林地	523ha	512ha	486ha	-11ha	-26ha	-37ha
草地	164ha	161ha	132ha	-3ha	-29ha	-32ha
農地	42ha	38ha	31ha	-4ha	-7ha	-11ha
グラウンドなど	160ha	136ha	128ha	-24ha	-8ha	-32ha
水面	78ha	76ha	75ha	-2ha	-1ha	-3ha
合計	967ha	923ha	852ha	-44ha	-71ha	-115ha

※概ね300㎡以上のみどりを反映しました。

※平成5年(1993年)は、平成21年(2009年)、平成26年(2014年)と精度が異なります。

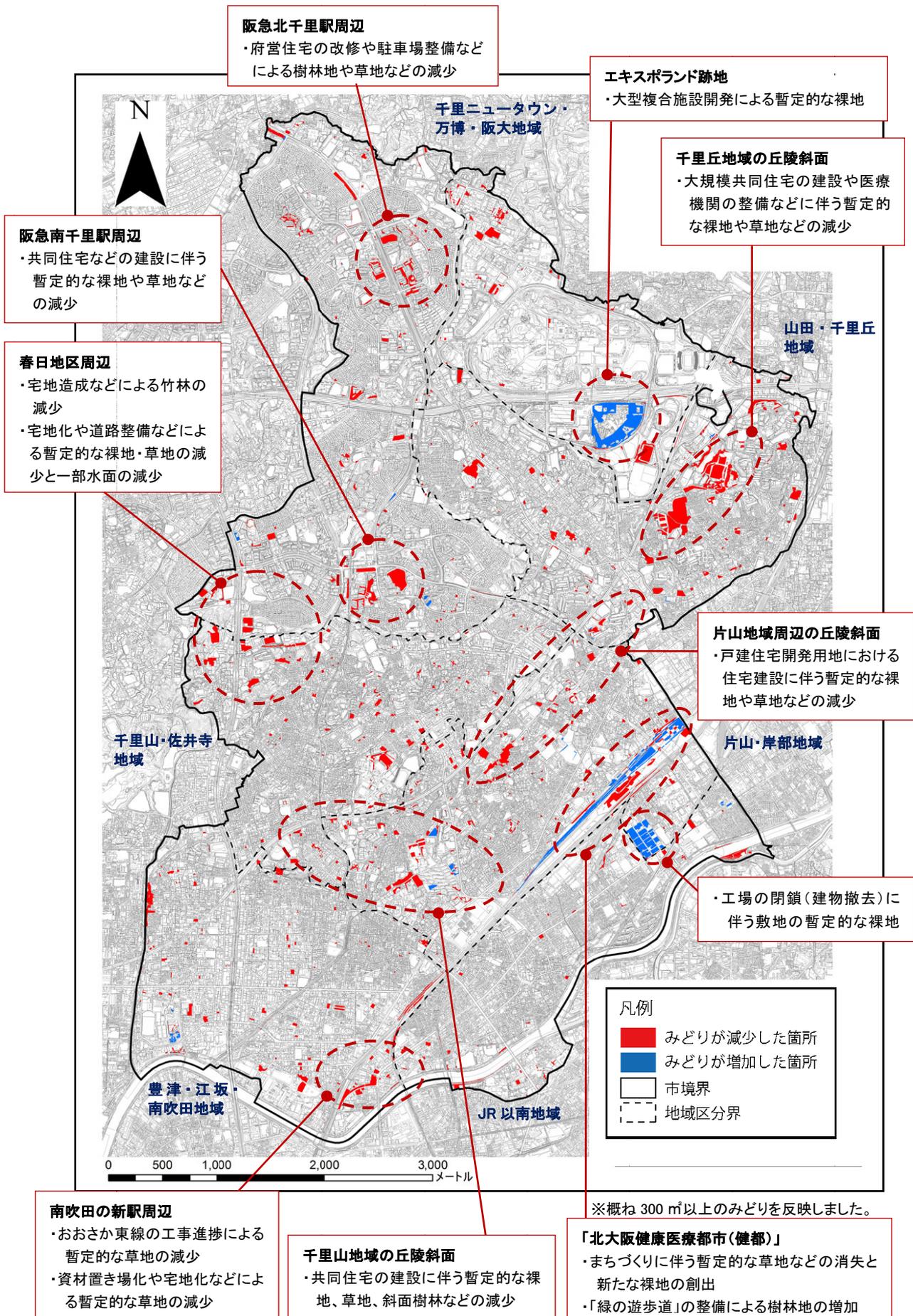


図2.2.3 平成21年（2009年）から平成26年（2014年）までのみどりの面積の変化

(4) 緑被地の現況

吹田市の緑被率は、市全域で見ると26.1%（平成25年（2013年）4月調査時点）となっています。

地域別に見ると（図2.2.4参照）、丘陵・台地が多い千里ニュータウン・万博・阪大地域（その1）では40%を超え、万博記念公園を含む千里ニュータウン・万博・阪大地域（その2）では50%を超える高い値となっていますが、市域南部の市街地では10%以下の地域もあることから、吹田市の緑被地の量的分布には地域差があり、市域北部の地域では緑被率が高く、市域南部の地域では緑被率が低いといえます。

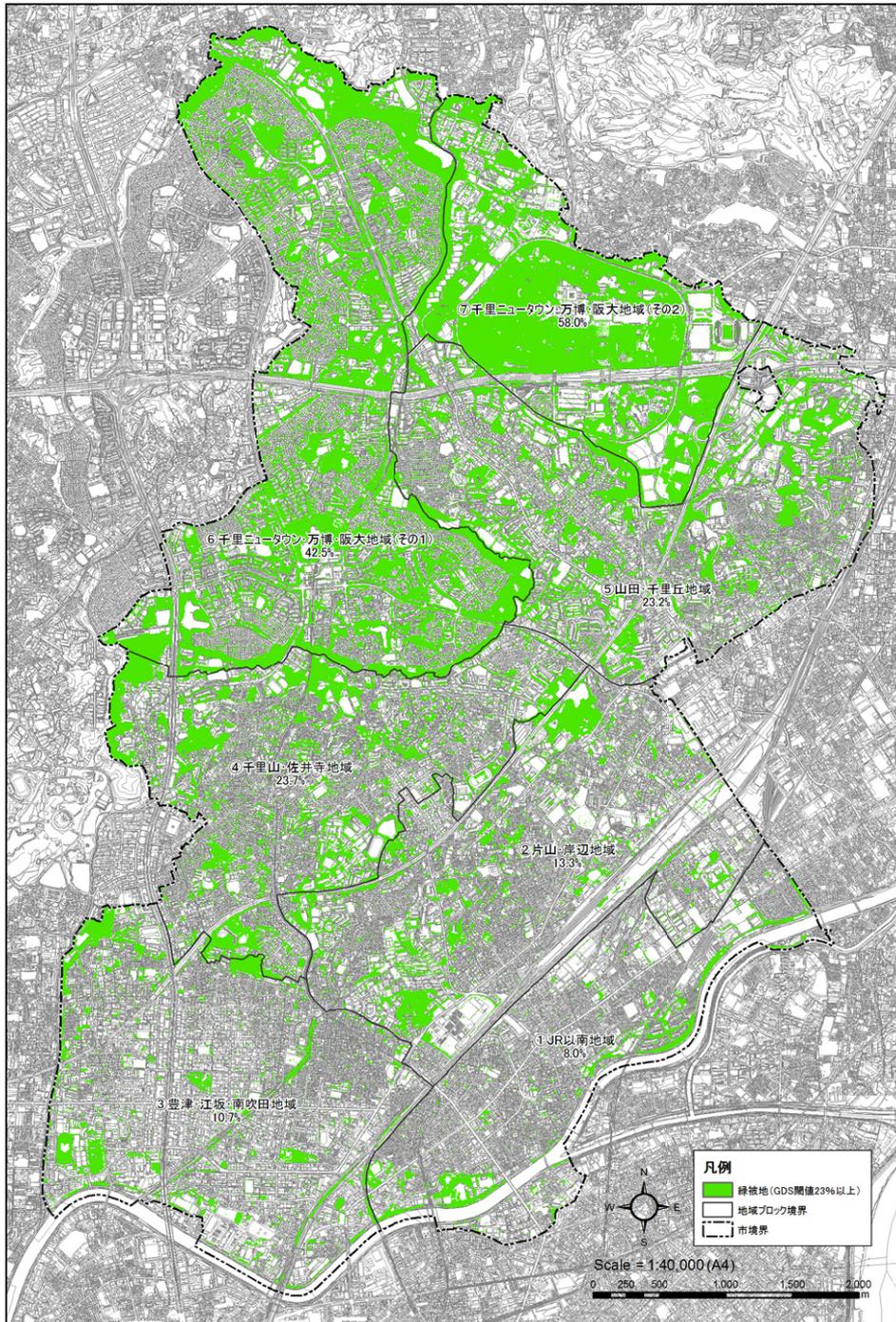


図2.2.4 地域別緑被率（平成25年（2013年）時点）

（出典：「緑被率調査報告書」（吹田市、平成26年（2014年））

<吹田市全域>

植生タイプ	植生分類	面積	割合
針葉樹林	B,E	23.9ha	6.1%
常緑広葉樹林	A	47.0ha	11.9%
落葉広葉樹林	D	96.0ha	24.3%
常緑落葉混交林	C	151.2ha	38.3%
竹林	F	76.3ha	19.3%
合計		394.4ha	100.0%

<万博公園以外の地域>

植生タイプ	植生分類	面積	割合
針葉樹林	B,E	21.1ha	6.3%
常緑広葉樹林	A	35.5ha	10.5%
落葉広葉樹林	D	83.5ha	24.8%
常緑落葉混交林	C	120.9ha	35.9%
竹林	F	75.5ha	22.4%
合計		336.5ha	100.0%

※植生分類は、すいたの自然2011(2010年調査)による。

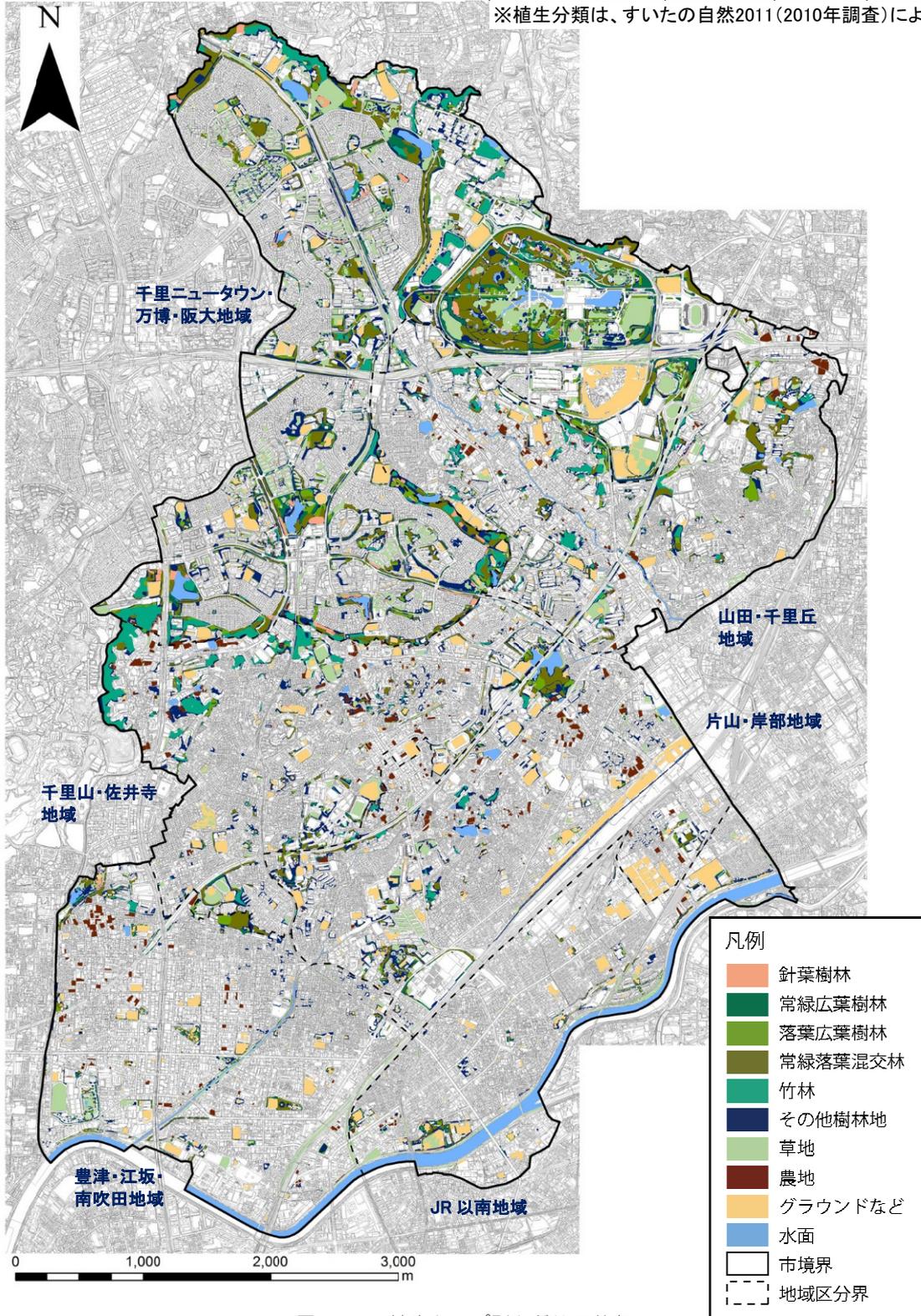


図2.2.5 植生タイプ別みどりの分布

(出典：「すいたの自然2011」(2010年調査)より樹木の植生データのみを抽出)

(5) 緑地の現況

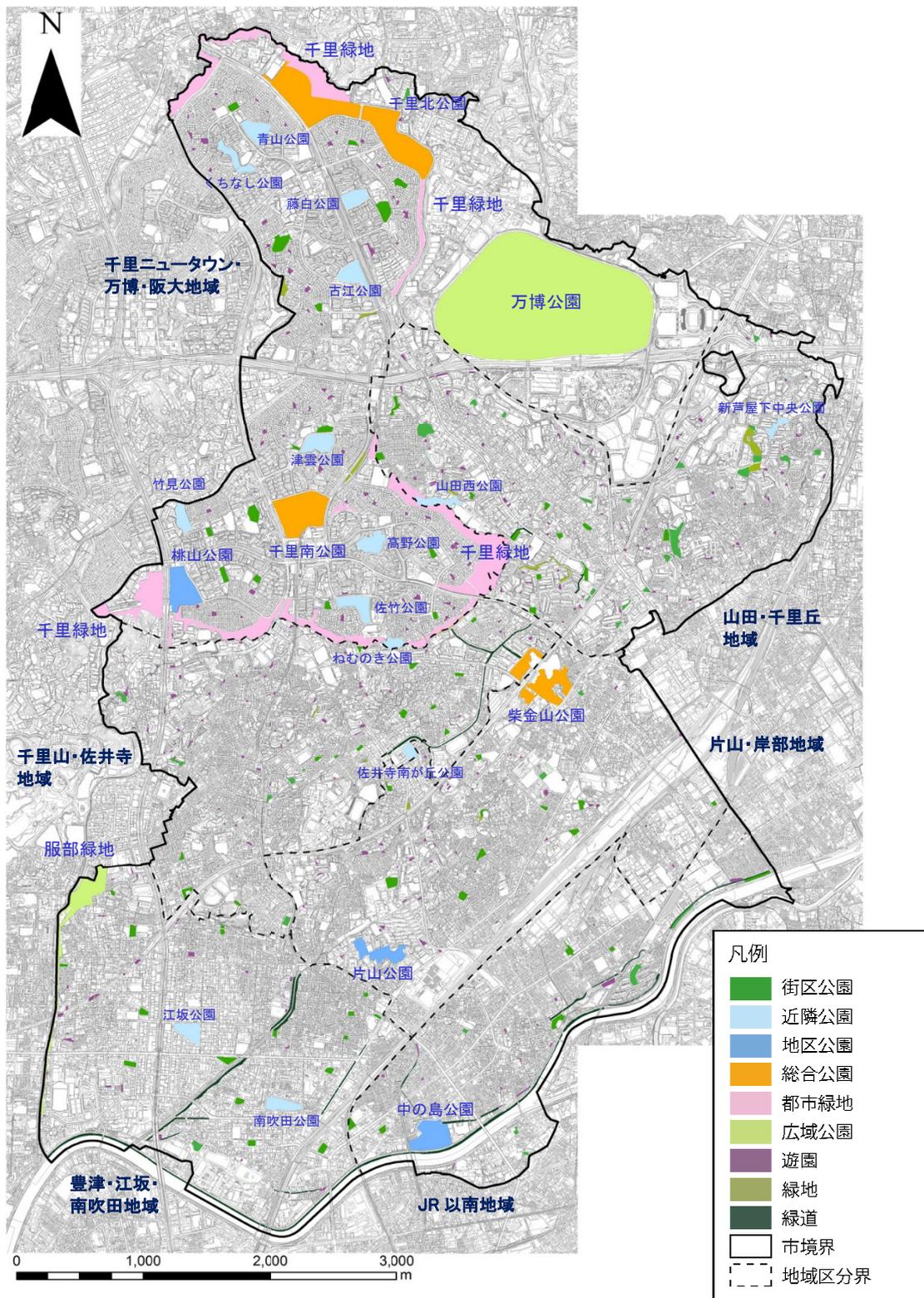
将来的にも残される可能性が高い、担保性があるみどり（緑地）は、平成26年度（2014年度）末現在、「都市公園」、「都市公園に準じる機能を持つ施設として、吹田市、大阪府又は国が土地を所有（借地などを含む）している緑地（公共施設緑地）」、「樹林地、農地、ため池などのオープンスペース、公共施設、民有の宅地や事業地などにおいて、法や条例などにより、吹田市、大阪府又は国が土地利用を規制・誘導して確保する緑地（地域制緑地）」を合わせて556.74haです。

表2.2.2 緑地の現況

分類		箇所数	面積 (ha)	
施設緑地	都市公園	街区公園	108	29.96
		近隣公園	14	30.30
		地区公園 (中の島公園、片山公園、桃山公園)	3	16.40
		総合公園 (千里南公園、千里北公園、紫金山公園)	3	49.00
		都市緑地 (千里緑地)	1	58.80
		広域公園 (万博公園、服部緑地)	2	137.90
		小計	131	322.36
	公共施設緑地	遊園	334	14.87
		緑地	15	3.60
		緑道	27	13.69
		街路樹	-	30.89
		公共施設の緑被地	241	35.69
		公立高校の緑被地	5	2.92
		国立大学の緑被地	1	27.56
小計	-	129.22		
地域制緑地	風致地区	3	約 41.70 ^{※1}	
	生産緑地地区	202	約 52.77	
	保安林	3	1.84	
	緑地協定	3	2.75	
	史跡	3	2.52	
	自然環境の保全と回復に関する協定	25	14.39	
	小計	239	115.97	
合計	-	557.66 ^{※2}		

※1 地区内において、30%の緑化が図られると想定しています。(参考:風致地区内における建築等の規制に関する条例第4条)

※2 緑地間の重複を除いています。



※街路樹、公共施設の緑被地、公立高校の緑被地、国立大学の緑被地は表示していません。

図2.2.6 施設緑地の現況

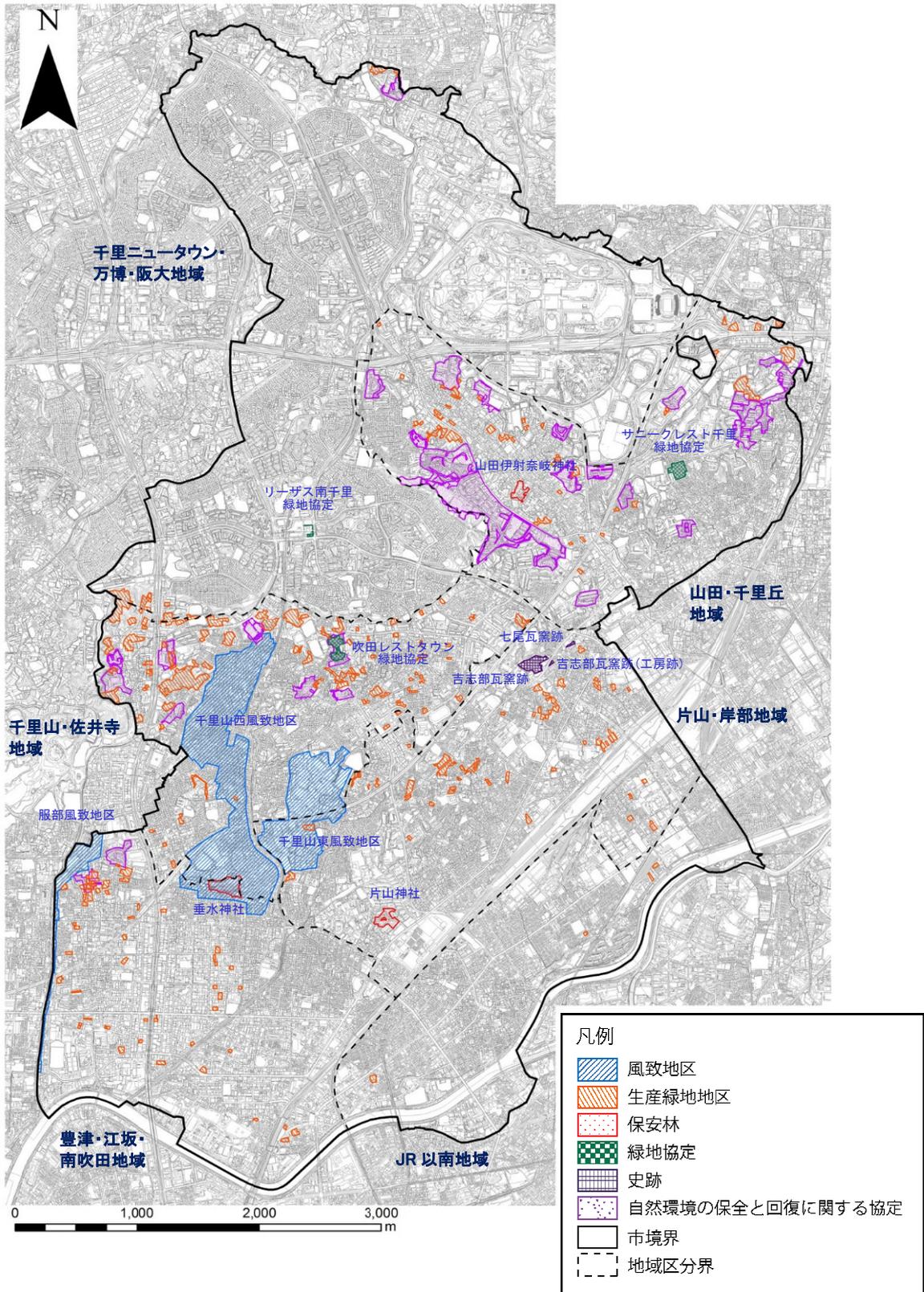


図2.2.7 地域制緑地の現況

(6)みどりのネットワークの現況

みどりの現況図から、樹林地、草地、農地、水面を対象に、相互の距離が近接し、まとまったみどりを形成している「みどりの拠点地区」を抽出しました。次に、航空写真などで現状を確認し、街路樹や河川などの帯状のみどりにより、「みどりの拠点地区」間が相互につながれている「回廊地区」を抽出したところ、下図のようなみどりのネットワークの現況が確認されました。

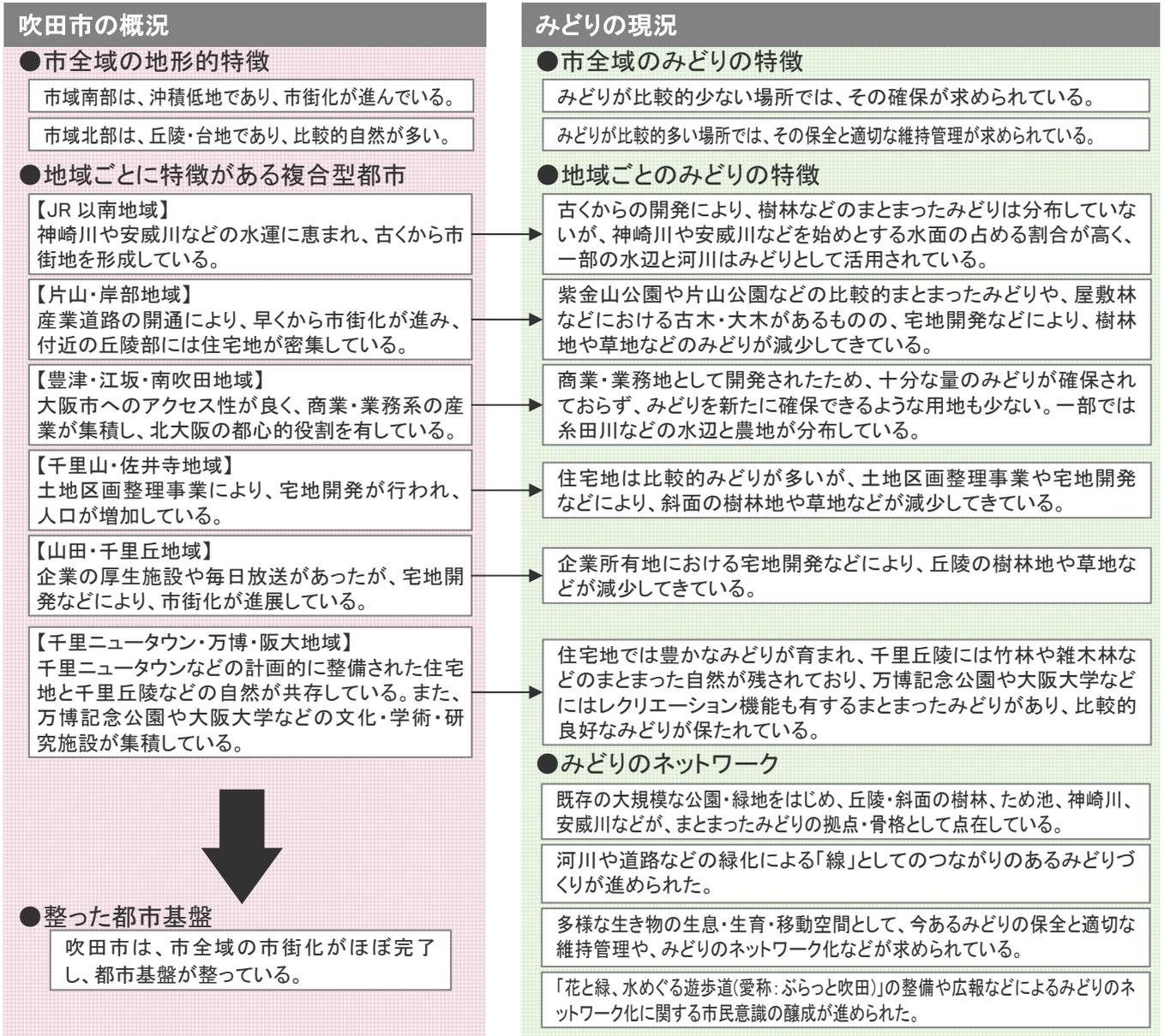


図2.2.8 みどりのネットワークの現況

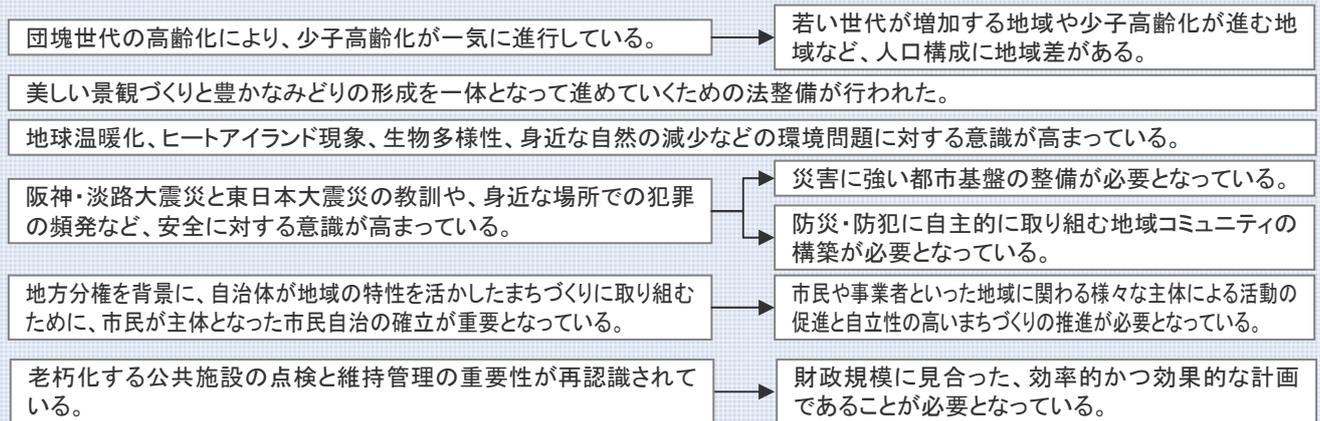
3 みどりの課題

吹田市の概況、みどりの現況、社会動向などを踏まえ、以下にみどりの課題を示します。

(1)吹田市のみどりを取り巻く状況

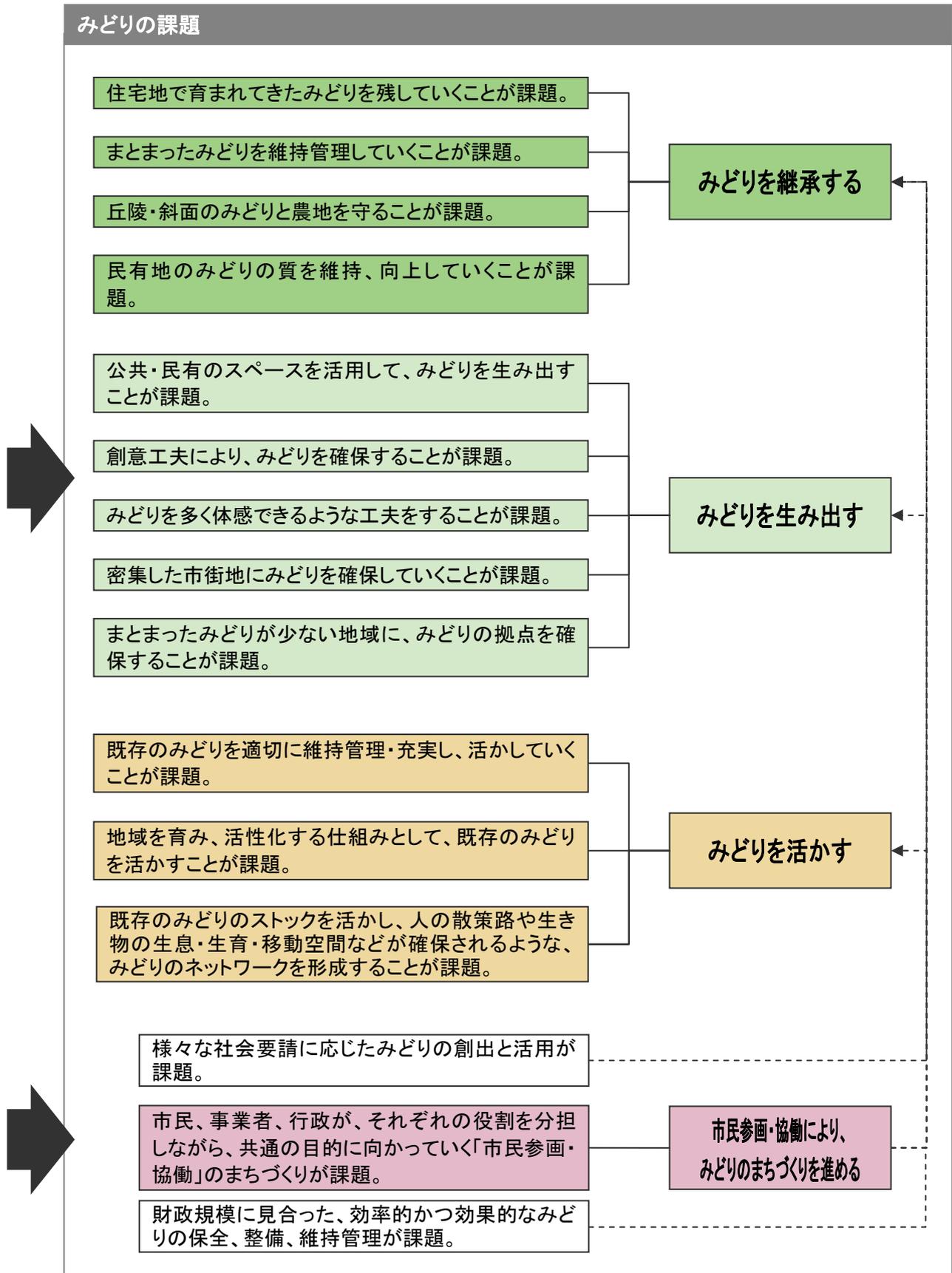


社会動向



吹田市のみどりを取り巻く状況から、みどりの課題は、「みどりを継承する」、「みどりを生み出す」、「みどりを活かす」、「市民参画・協働により、みどりのまちづくりを進める」の4つの分類で整理することができます。

(2)みどりの課題





コラム

「吹田くわい」と吹田市のイメージキャラクター「すいたん」

吹田市名産の伝統野菜である「吹田くわい」と「吹田くわい」がモチーフになっている吹田市のイメージキャラクター「すいたん」を紹介します。



「吹田くわい」

吹田くわいは、元禄14年（1701年）「摂陽群団／名産土産の巻」に最初の記録があります。明治維新まで毎年御所に献上されてきました。「吹田くわい」の学名は、故牧野富太郎博士によって命名され、吹田に産するという意味で、吹田にとっては植物分類学上からも貴重なものです。戦後は、絶滅寸前でしたが、歴史的、また貴重な植物ということから「吹田くわい」保存会が発足されました。吹田まつりで献上行列を再現しています。



「吹田くわい」

出典：「みんなで選ぶ吹田風物百選」（吹田市、平成19年（2007年））



吹田市のイメージキャラクター「すいたん」

- 【名前】 すいたん
- 【誕生日】 10月15日
- 【性別】 男の子
- 【身長】 毎日伸びてます！
- 【体重】 吹田くわい70個分
- 【性格】 とても元気！
- 【趣味】 スポーツ観戦（ガンバ大阪観戦）
- 【いまはまっていること】 ツイッター
市内のイベントめぐり
- 【夢】 水泳で200メートル泳げるようになりたい



吹田市のイメージキャラクター「すいたん」

出典：「吹田市ホームページ」

<デザイン説明>

吹田くわいがモチーフ。
市の花「さつき」と情熱を表す「ハート」を持っています。
明るい未来に向かって駆ける姿を表現！